

## 第2章 子ども・子育てを取り巻く現状

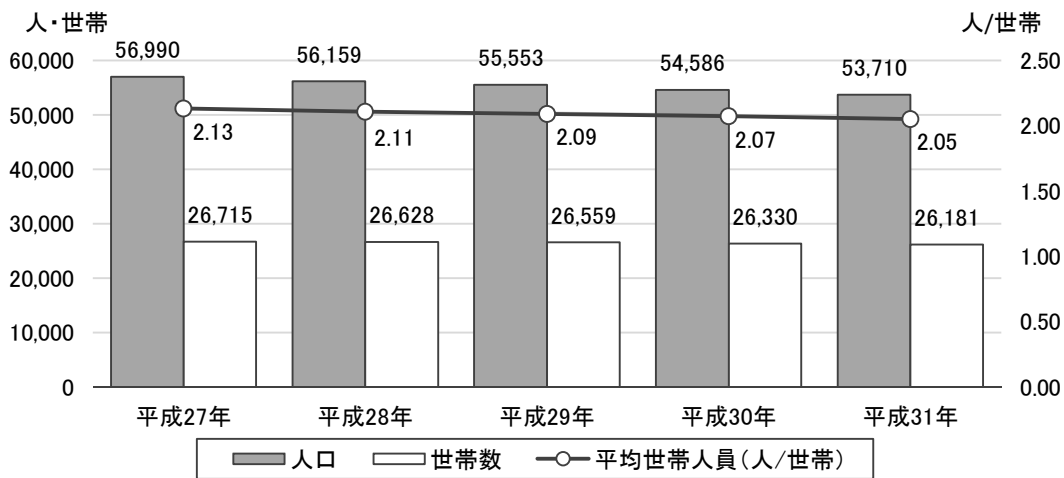
### 1 統計による浜田市の状況

#### (1) 人口や世帯の状況

##### ① 人口と世帯数の推移

本市の人口は減少傾向で推移しており、平成31年4月1日現在で53,710人となっています。世帯数は微減傾向にあり、1世帯あたりの人数は減少しています。

##### ■人口と世帯数の推移

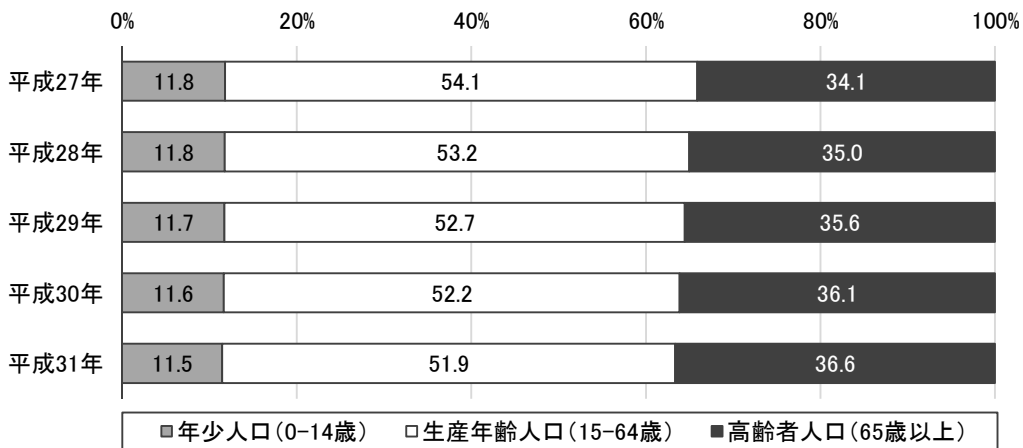


資料:住民基本台帳(各年4月1日現在)

##### ② 年齢3区分別人口割合の推移

本市の年齢3区分別人口の割合をみると、年少人口は減少傾向にある一方で、高齢者人口は増加傾向にあります。本市においても少子高齢化が進行していることがわかります。

##### ■年齢3区分別人口割合の推移

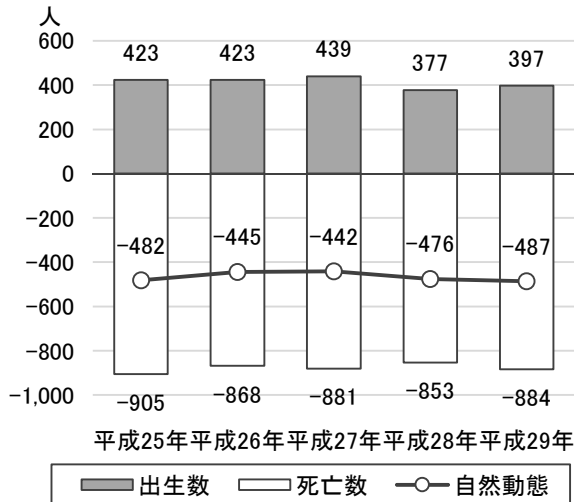


資料:住民基本台帳(各年4月1日現在)

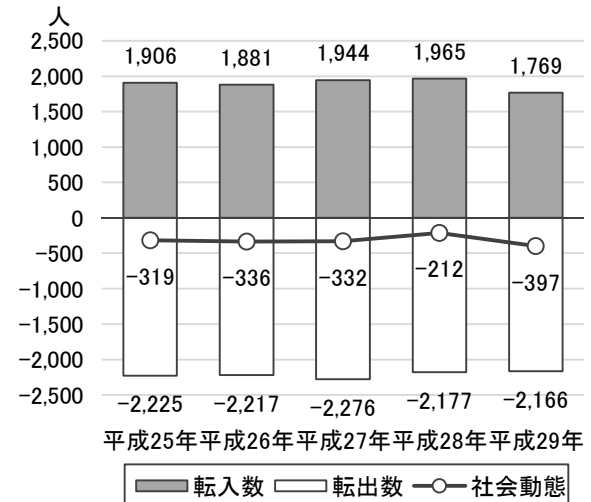
### ③ 人口動態

自然動態をみると、死亡数が出生数を上回って推移しており、平成29年には487人のマイナスとなっています。社会動態では、転出が転入を上回っており、社会増減もマイナスとなっています。

■自然動態の推移



■社会動態の推移



■人口動態の推移

区分	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年
出生数	423	423	439	377	397
死亡数	905	868	881	853	884
自然動態	-482	-445	-442	-476	-487
転入数	1,906	1,881	1,944	1,965	1,769
転出数	2,225	2,217	2,276	2,177	2,166
社会動態	-319	-336	-332	-212	-397
人口動態	-801	-781	-774	-688	-884

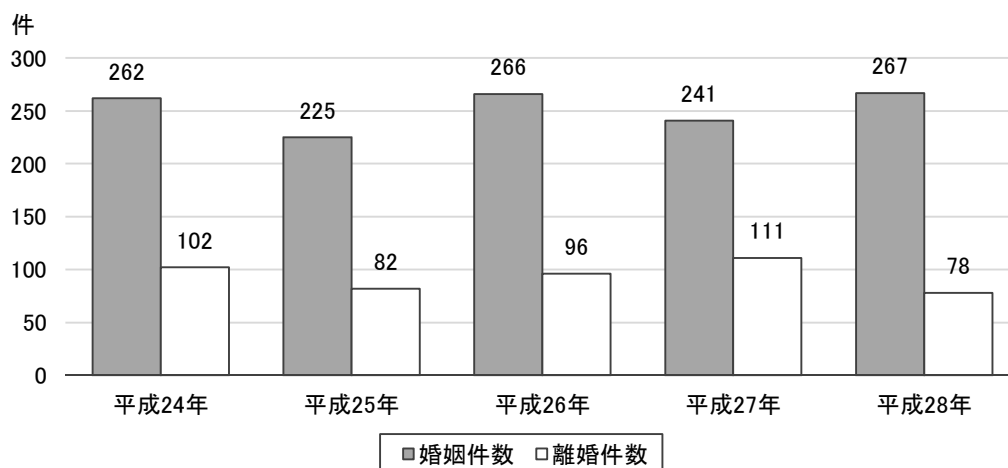
資料：住民基本台帳人口移動報告(各年1月1日現在)

#### ④ 婚姻・離婚数と婚姻・離婚率の推移

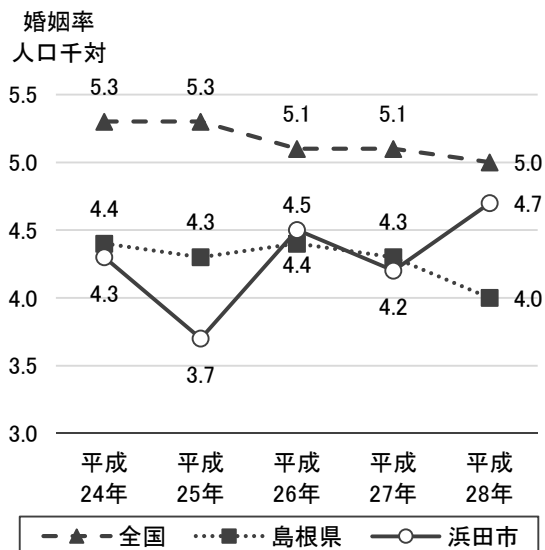
婚姻件数は、毎年250件前後で推移していますが、平成28年では267件と近年の中では高い件数となっており、婚姻率をみても島根県と比べて高くなっています。

離婚件数は増減を繰り返していますが、平成28年では78件と、近年の中では低い件数となっており、離婚率をみても島根県・全国と比べて低くなっています。

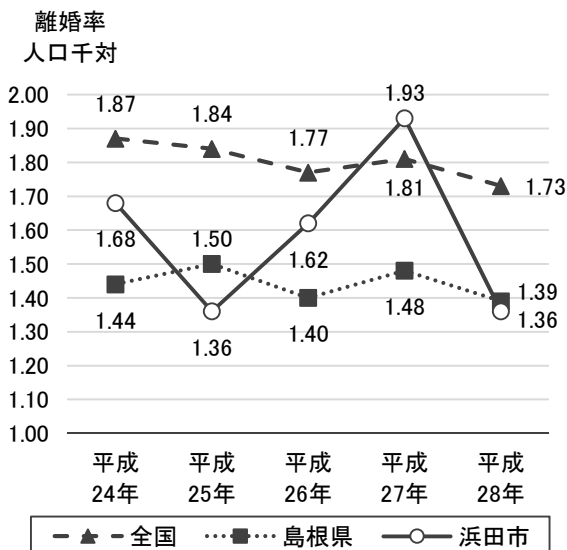
■婚姻件数・離婚件数の推移



■婚姻率の推移



■離婚率の推移

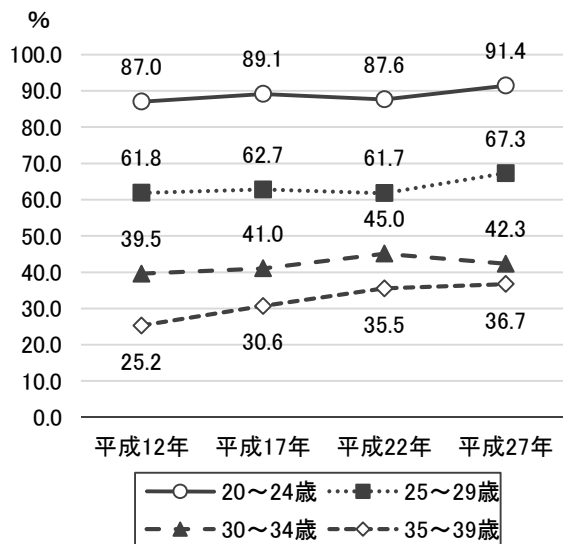


資料：住民基本台帳人口移動報告(各年1月1日現在)

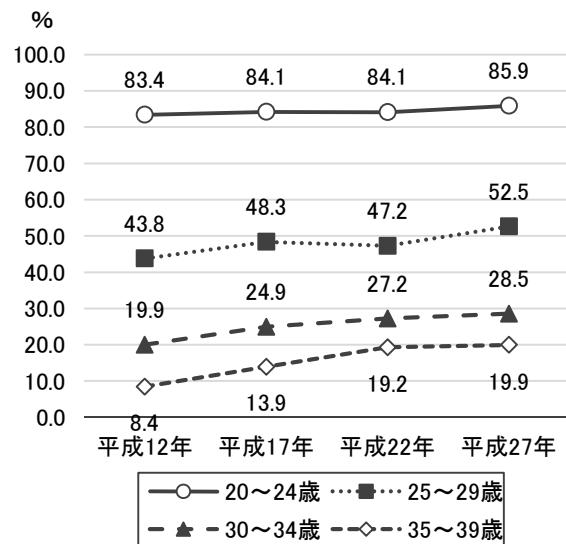
### ⑤ 未婚率の推移

本市の未婚率は、男性・女性ともにいずれの年齢層においても未婚の割合が高くなる傾向がみられます。男性の30～34歳の未婚率は平成22年と比べて平成27年では減少しています。女性は男性と比べて各年齢層における未婚率は低くなっているものの、平成27年の25～29歳の未婚率は52.5%と大きく上昇しています。

■男性の未婚率の推移



■女性の未婚率の推移

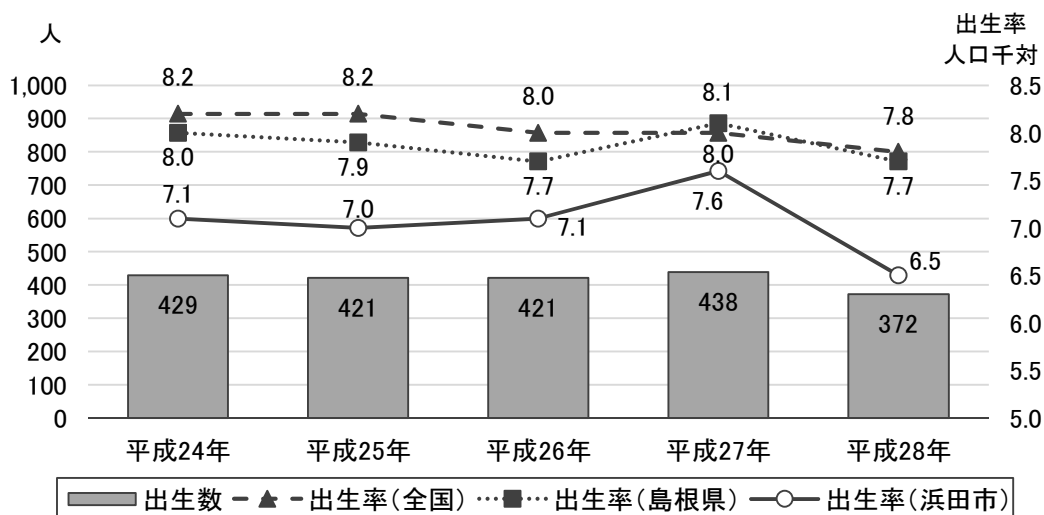


資料：国勢調査

### ⑥ 出生数・出生率の推移

本市の出生率は7.0前後で推移しており、島根県・全国と比べて低い状況となっています。

■出生数・出生率の推移



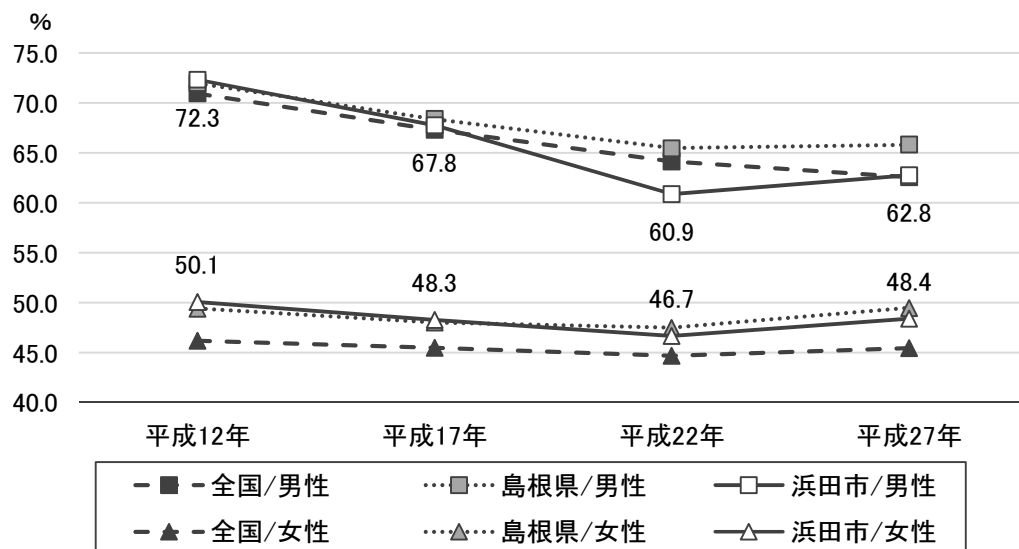
資料：島根県保健統計書

## (2) 労働の状況

### ① 就労状況

平成27年の15歳以上の就業率は、男性においては全国と同程度で、島根県と比較して低くなっています。女性においては、全国と比べて高く島根県と同程度の水準となっています。

#### ■就業率の推移（全国・島根県との比較）



#### ■就業率の推移（全国・島根県との比較）

区分		平成12年	平成17年	平成22年	平成27年
男性 (15歳以上)	浜田市	19,126	17,482	16,124	15,606
		72.3	67.8	60.9	62.8
	島根県	72.0	68.4	65.5	65.8
	全国	70.9	67.3	64.1	62.6
女性 (15歳以上)	浜田市	14,920	14,052	13,022	12,651
		50.1	48.3	46.7	48.4
	島根県	49.4	48.0	47.5	49.5
	全国	46.2	45.5	44.7	45.4

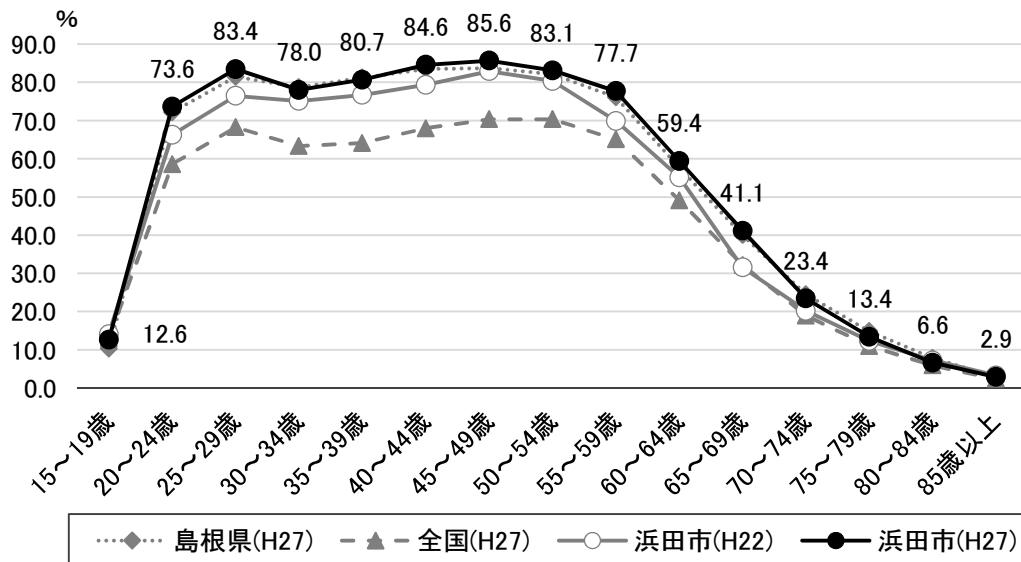
資料：国勢調査

## ② 女性の年齢別就業率

女性の就業率を年齢別にみると、平成27年では平成22年と比べて20～70歳代にかけて上昇しています。

結婚・出産にあたる年代に一旦低下し、育児が落ち着いた時期に再び上昇するいわゆる「M字カーブ」については、本市では全国に比べて落ち込みが低く抑えられています。

■女性の年齢別就業率の推移



■女性の年齢別就業率（全国・島根県との比較）

単位：％

区分	浜田市		島根県	全国
	平成 22 年	平成 27 年	平成 27 年	平成 27 年
15～19 歳	14.0	12.6	10.2	12.9
20～24 歳	66.2	73.6	72.1	58.6
25～29 歳	76.4	83.4	81.4	68.2
30～34 歳	75.1	78.0	78.7	63.3
35～39 歳	76.7	80.7	81.2	64.1
40～44 歳	79.3	84.6	83.5	67.9
45～49 歳	82.9	85.6	83.7	70.3
50～54 歳	80.3	83.1	82.1	70.3
55～59 歳	69.9	77.7	76.1	65.0
60～64 歳	55.1	59.4	57.7	49.1
65～69 歳	31.5	41.1	39.9	32.1
70～74 歳	20.1	23.4	24.4	18.9
75～79 歳	12.3	13.4	14.8	10.9
80～84 歳	7.2	6.6	7.8	5.9
85 歳以上	3.2	2.9	2.8	2.4

資料：国勢調査

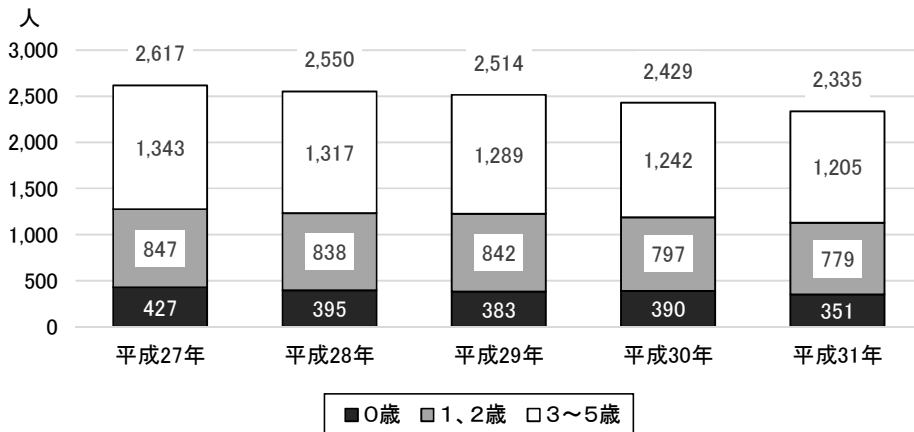
## 2 教育・保育や子育て支援に関する現状

### (1) 子どもの数の推移

本市における子ども（0～17歳）の数の推移は、平成27年から平成31年において減少傾向で推移しており、平成31年4月1日現在で0～5歳人口が2,335人、0～17歳人口が7,553人となっています。

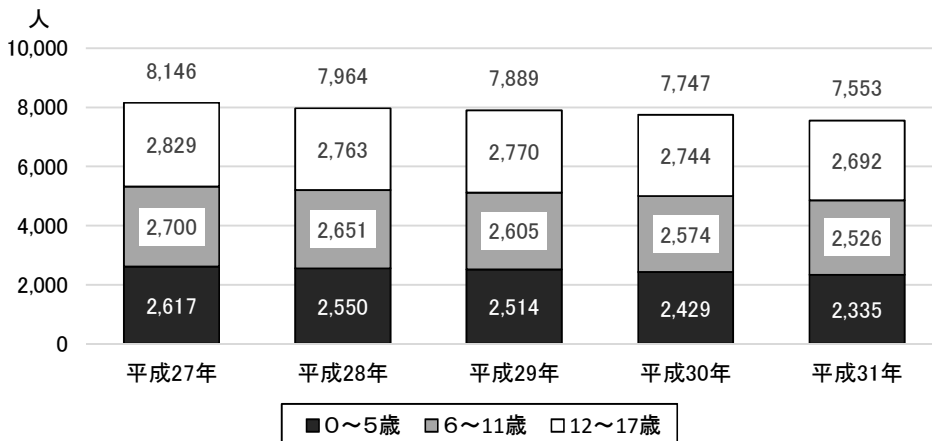
	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	平成31年
0歳(人)	427	395	383	390	351
1、2歳(人)	847	838	842	797	779
3～5歳(人)	1,343	1,317	1,289	1,242	1,205
0～5歳合計(人)	2,617	2,550	2,514	2,429	2,335
6～11歳合計(人)	2,700	2,651	2,605	2,574	2,526
12～17歳合計(人)	2,829	2,763	2,770	2,744	2,692

#### ■0～5歳人口の推移



資料：住民基本台帳(各年4月1日現在)

#### ■0～17歳人口の推移



資料：住民基本台帳(各年4月1日現在)

## (2) 教育・保育施設や子育て支援サービスの利用状況

### ① 保育所（園）入所児童数の推移

保育所（園）入所児童数の推移をみると、定員数とともに減少となっています。定員に占める入所児童数の割合は90%から100%で推移しています。

	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
保育所（園）数（か所）	24	24	25	23
うち公立（か所）	0	0	0	0
定員数（人）	1,645	1,655	1,630	1,445
入所児童数（人）	1,626	1,657	1,531	1,353
0歳児（人）	106	117	110	86
1歳児（人）	262	269	256	221
2歳児（人）	299	308	277	256
3歳児（人）	312	319	290	259
4歳児（人）	319	322	301	264
5歳児（人）	328	322	297	267
定員に占める入所児童割合（%）	98.8	100.1	93.9	93.6

資料：市調べ（各年度4月1日現在）

### ② 幼稚園入園児童数の推移

幼稚園入園児童数の推移をみると、過去4年間で24%減少しています。

	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
幼稚園数（か所）	5	5	5	5
うち公立（か所）	4	4	4	4
入園児童数（人）	192	170	158	145
3歳児（人）	61	50	52	43
4歳児（人）	67	60	50	55
5歳児（人）	63	59	53	46
特別支援保育児童（人）	1	1	3	1

資料：市調べ（各年度4月1日現在）



### ③ 認定こども園入園児童数の推移

認定こども園の入園児童数は、施設数の増加に伴って増加しており、過去4年間で113%増加しています。

	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
認定こども園数(か所)	2	2	3	4
うち公立(か所)	0	0	0	0
保育園部入園児童数(人)	210	212	318	449
0歳児(人)	13	14	25	25
1歳児(人)	27	35	43	87
2歳児(人)	33	31	63	86
3歳児(人)	38	38	61	87
4歳児(人)	57	36	60	81
5歳児(人)	42	58	66	83
幼稚園部入園児童数(人)	19	20	25	39
3歳児(人)	5	9	6	13
4歳児(人)	8	5	9	11
5歳児(人)	6	6	10	15

資料:市調べ(各年度4月1日現在)

### ④ 保育サービス利用・実施状況

保育サービスの利用状況は、以下のとおりとなっています。

		平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
延長保育	延べ利用児童数(人)	20,024	17,709	14,752	11,969
	実施箇所数(か所)	25	25	27	26
休日保育	延べ利用児童数(人)	290	257	181	119
	実施箇所数(か所)	1	1	1	1
病児・病後児保育※	延べ利用児童数(人)	462	379	121	23
	実施箇所数(か所)	1	1	1	1
一時預かり	延べ利用児童数(人)	2,099	1,372	1,302	1,271
	実施箇所数(か所)	25	25	25	26

資料:市調べ

※病児・病後児保育は、平成 29 年 9 月 1 日から事業休止。平成 30 年 8 月 10 日から病後児保育のみ事業再開。

## ⑤ 小中学校児童・生徒数の推移

小学校、中学校の児童・生徒数は、以下のとおりとなっています。小学校と中学校ともに学校数は変わっていませんが、児童・生徒数は年々減少しています。

### ■小学校

	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
学校数(校)	16	16	16	16
児童数(人)	2,690	2,621	2,580	2,553

資料:市調べ(各年度5月1日現在)

### ■中学校

	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
学校数(校)	9	9	9	9
生徒数(人)	1,386	1,393	1,362	1,322

資料:市調べ(各年度5月1日現在)

## ⑥ 放課後児童クラブ

放課後児童クラブの利用児童数が市内児童数に占める割合は、20%台から 30%台前半へ増加しています。

	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
実利用児童数(人)	640	710	753	809
実施校区数(校)	15	15	15	15
実施箇所数(か所)	17	17	19	20
市内児童数に占める割合(%)	23.9	27.3	29.4	31.9
児童数合計(人)	2,674	2,602	2,560	2,535

資料:市調べ(各年度5月1日現在)

## ⑦ ファミリー・サポート・センターの利用状況

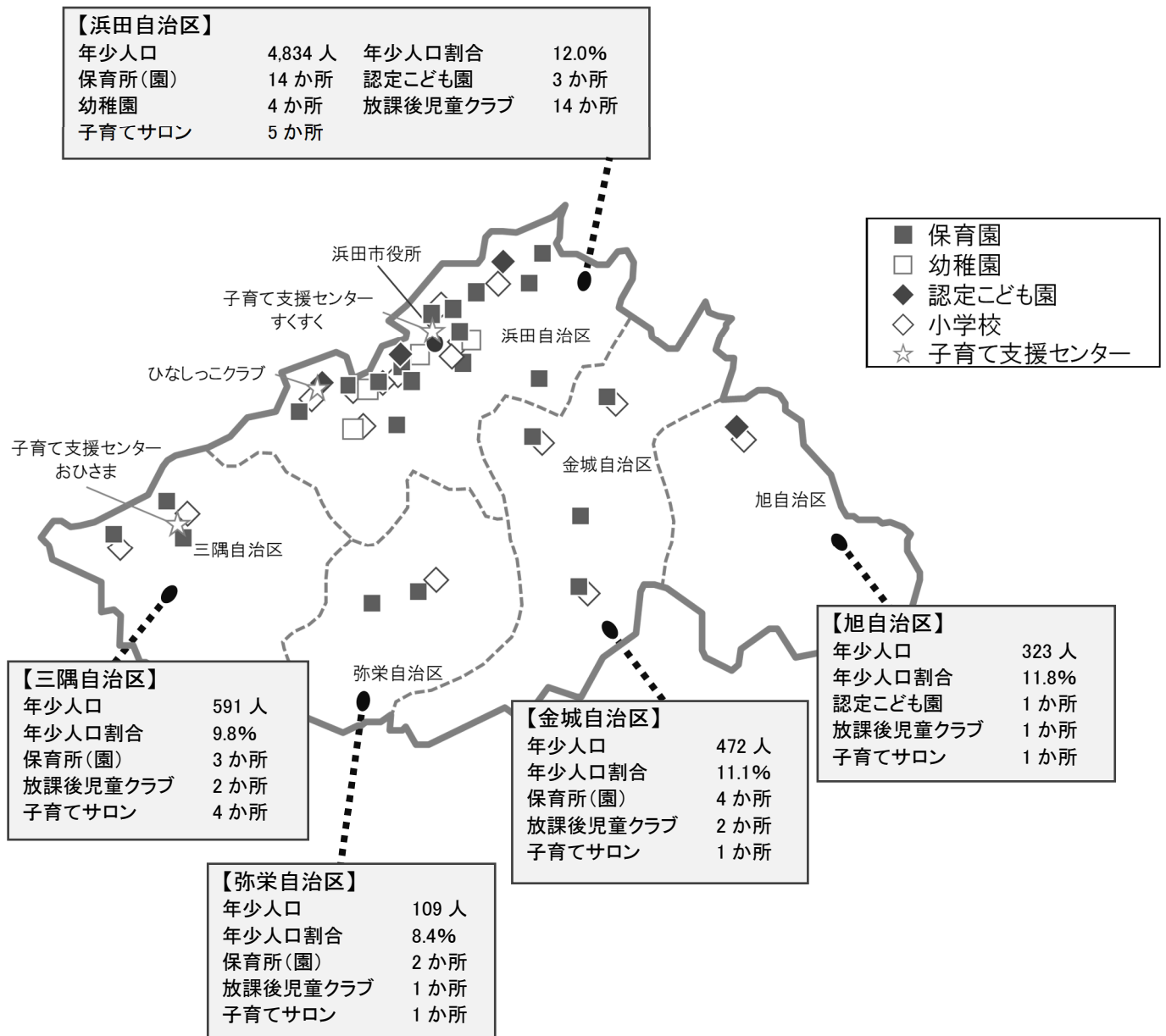
ファミリー・サポート・センターの会員数は、年度により増減がみられるものの、依頼会員数が 410 人前後、協力会員数が 170 人前後、両方会員数が 55 人前後で推移しています。

	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
依頼会員数(人)	401	413	425	414
協力会員数(人)	163	175	177	178
両方会員数(人)	56	65	55	57
延べ利用件数(件)	733	676	501	816

資料:市調べ(各年度3月末現在)

■自治区ごとの年少人口や教育・保育施設、子育て支援サービス等の提供状況

(平成 30 年 10 月 1 日現在)



### (3) 母子保健の状況

母子保健の状況は、以下のとおりとなっています。

		平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
母子健康手帳交付数	交付数(人)	383	419	386	370
妊婦一般健康診査	受診延べ人数(人)	4,779	4,766	4,565	4,757
乳児一般健康診査	受診延べ人数(人)	531	491	502	530
乳児健康診査	対象者(人)	438	377	394	405
	受診者(人)	424	363	365	384
	受診率(%)	96.8	96.3	92.6	94.8
1歳6か月児健康診査	対象者(人)	425	444	386	378
	受診者(人)	408	438	367	355
	受診率(%)	96.0	98.6	95.1	93.9
3歳児健康診査	対象者(人)	441	411	424	436
	受診者(人)	419	398	388	414
	受診率(%)	95.0	96.8	91.5	95.0

資料：市調べ

### 3 アンケート結果の概要

#### (1) 調査の概要

子どもをもつ保護者の子育てを取り巻く状況や子育て支援サービス等の利用意向を把握し、計画策定への基礎資料とするため、以下のとおり「浜田市子ども・子育てに関する市民実態調査」（就学前児童保護者調査、小学生児童保護者調査）を実施しました。（実施時期 平成31年1月18日～平成31年2月1日）

	就学前児童保護者調査	小学生児童保護者調査
調査地域	浜田市全域	
調査対象	市内在住で就学前児童(0～5歳)のいる世帯	市内在住で小学生児童のいる世帯
調査数	1,912	1,910
調査方法	・幼稚園・保育所(園)・認定こども園を通じて配布・回収 ・郵送による配布・回収	・学校を通じて配布・回収 ・郵送による配布・回収
有効回収数	1,536	1,510
有効回収率	80.3%	79.1%

## (2) アンケート結果の概要

### ① 子どもの育ちについて

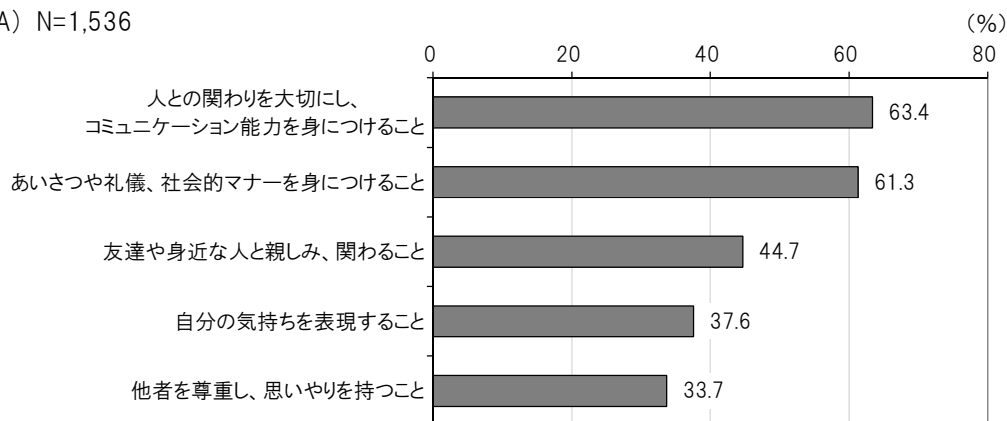
◎子どもに特に身につけてほしい力や大切にしてほしいと思うこと【上位5項目】

#### 【就学前】

「人との関わりを大切にし、コミュニケーション能力を身につけること」が63.4%で最も高くなっています。次いで「あいさつや礼儀、社会的マナーを身につけること」が61.3%、「友達や身近な人と親しみ、関わること」が44.7%で続いています。

■子どもに特に身につけてほしい力や大切にしてほしいと思うことはなんですか。(複数回答)

(MA) N=1,536

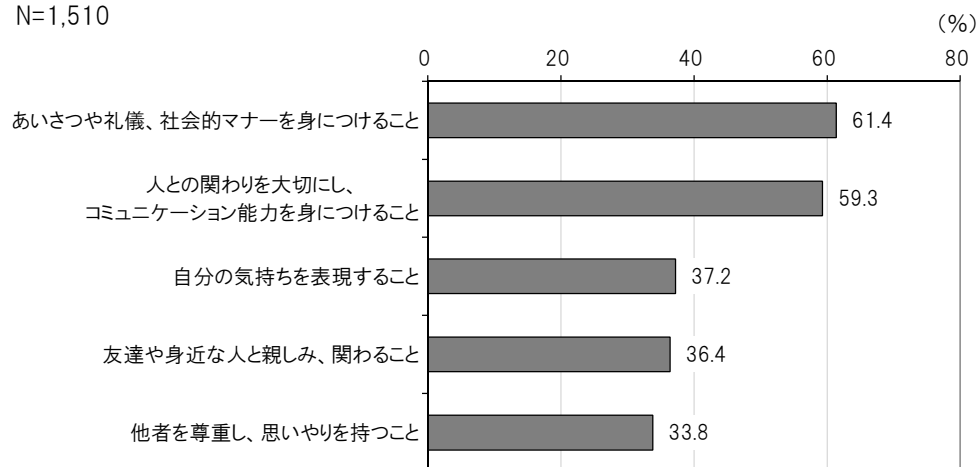


#### 【小学生】

「あいさつや礼儀、社会的マナーを身につけること」が61.4%で最も高くなっています。次いで「人との関わりを大切にし、コミュニケーション能力を身につけること」が59.3%、「自分の気持ちを表現すること」が37.2%で続いています。

■子どもに特に身につけてほしい力や大切にしてほしいと思うことはなんですか。(複数回答)

(MA) N=1,510

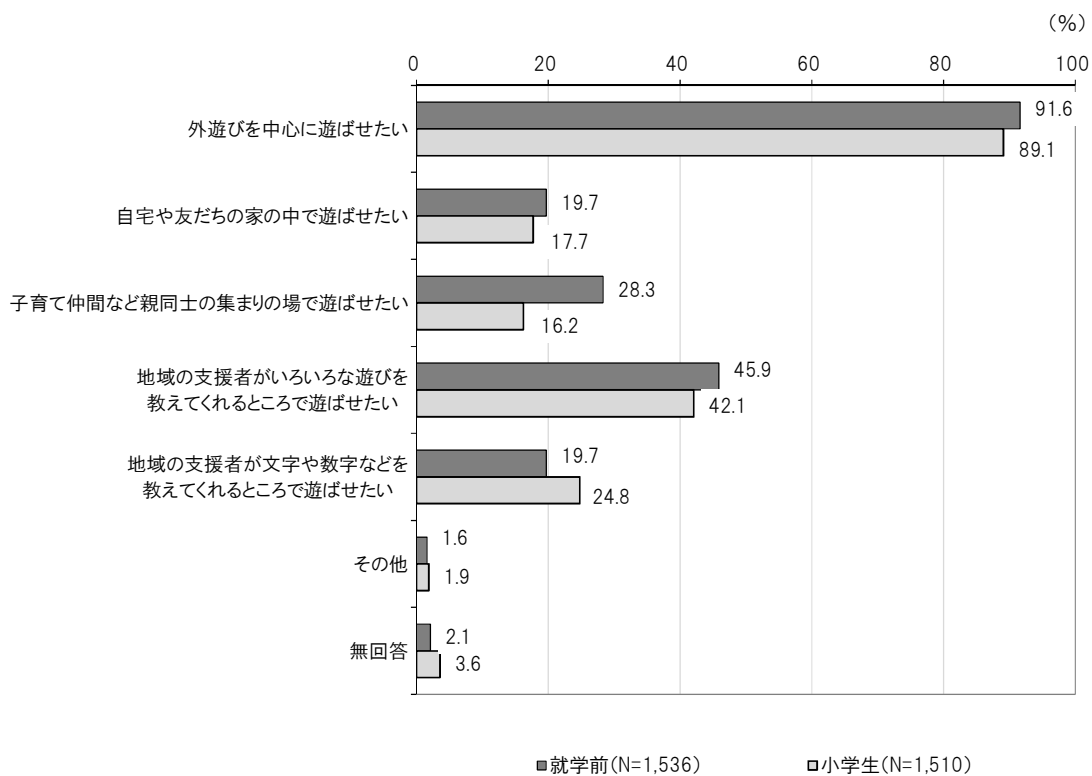


◎地域の中でお子さんを遊ばせたいと思う場所について

就学前では、「外遊びを中心に遊ばせたい」が 91.6%で突出しています。「地域の支援者がいろいろな遊びを教えてくれるところで遊ばせたい」が 45.9%、「子育て仲間など親同士の集まりの場で遊ばせたい」が 28.3%で続いています。

小学生では、「外遊びを中心に遊ばせたい」が 89.1%で突出しています。「地域の支援者がいろいろな遊びを教えてくれるところで遊ばせたい」が 42.1%、「地域の支援者が文字や数字などを教えてくれるところで遊ばせたい」が 24.8%で続いています。

■地域の中でお子さんをどのような場所で遊ばせたいと思っていますか。(複数回答)



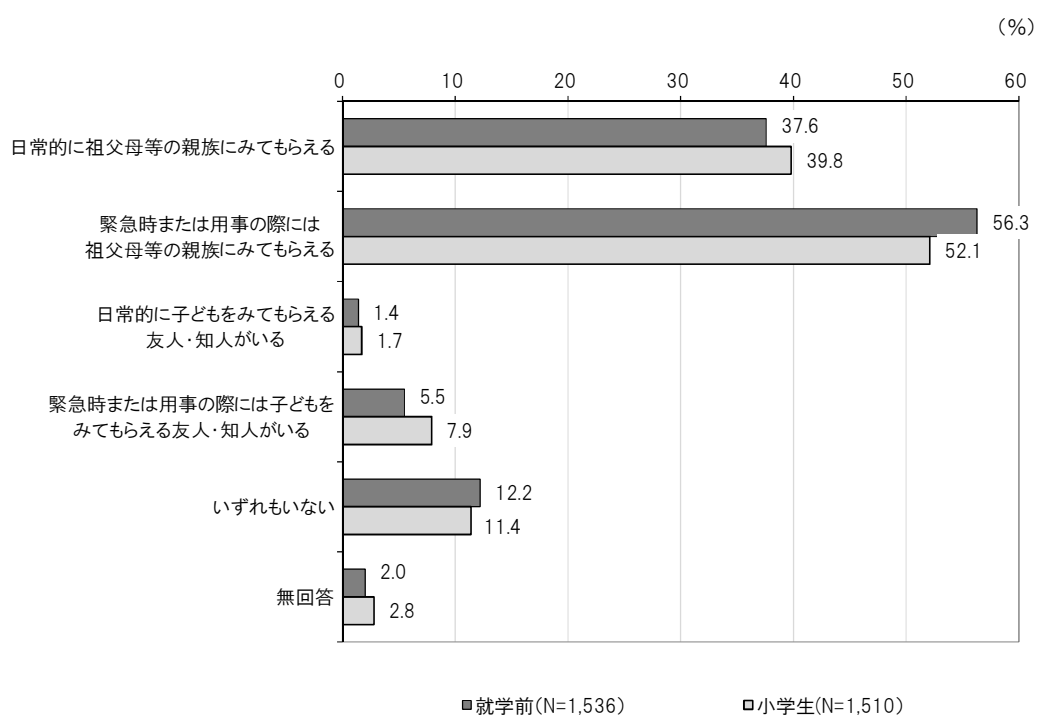
## ② お子さんをみてもらえる状況や保護者の悩みごとについて

### ◎日頃、お子さんをみてもらえる親族・知人

就学前では、「緊急時または用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」が 56.3%で最も高くなっています。次いで「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」が 37.6%、「いずれもない」が 12.2%が続いています。

小学生では、「緊急時または用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」が 52.1%で最も高くなっています。次いで「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」が 39.8%、「いずれもない」が 11.4%が続いています。

### ■日頃、お子さんをみてもらえる親族・知人はいますか。(複数回答)



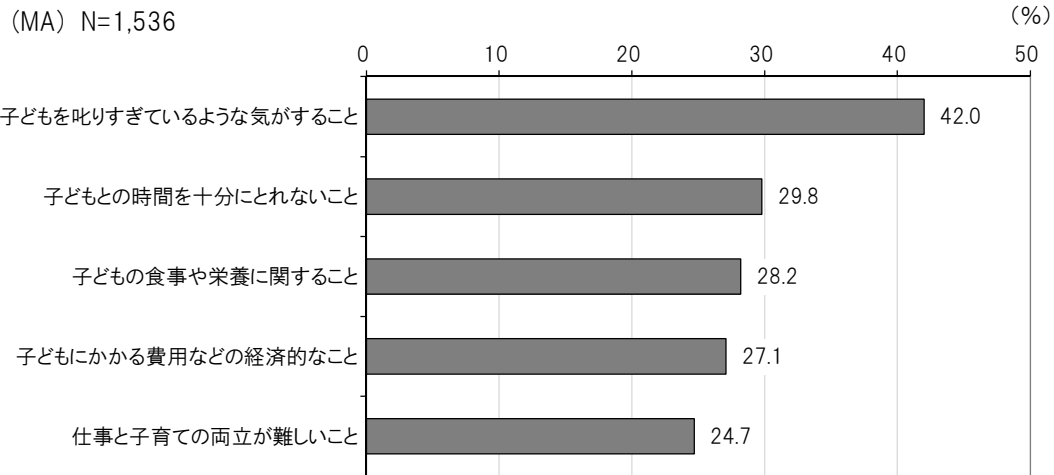


◎子育てに関して、日常悩んでいること、または気になること【上位5項目】

【就学前】

「子どもを叱りすぎているような気がする」とが 42.0%で最も高くなっています。次いで「子どもとの時間を十分にとれないこと」が 29.8%、「子どもの食事や栄養に関する」とが 28.2%で続いています。

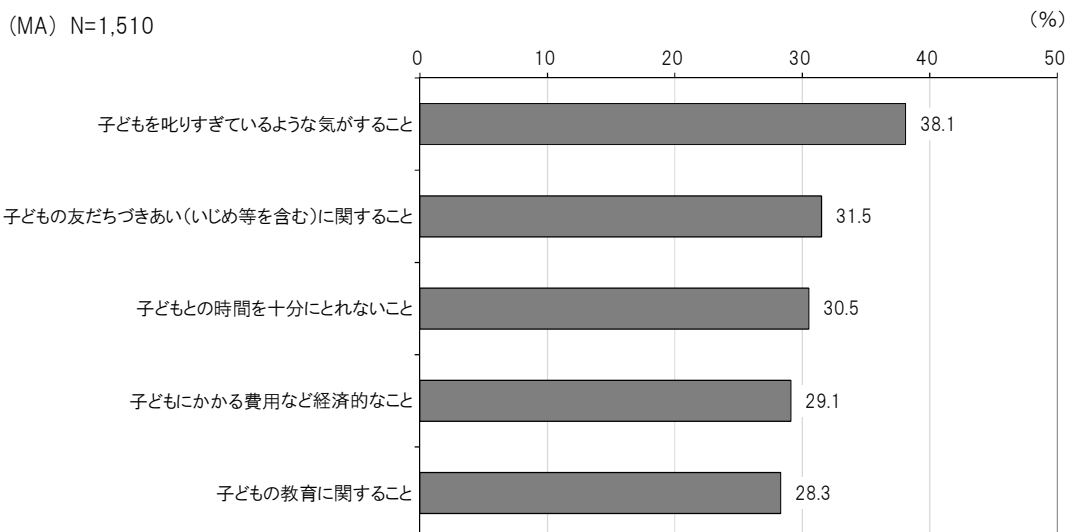
■子育てに関して、日常悩んでいること、または気になることはどのようなことですか。(複数回答)



【小学生】

「子どもを叱りすぎているような気がする」とが 38.1%で最も高くなっています。次いで「子どもの友だちづきあい(いじめ等を含む)に関する」とが 31.5%、「子どもとの時間を十分にとれないこと」が 30.5%で続いています。

■子育てに関して、日常悩んでいること、または気になることはどのようなことですか。(複数回答)

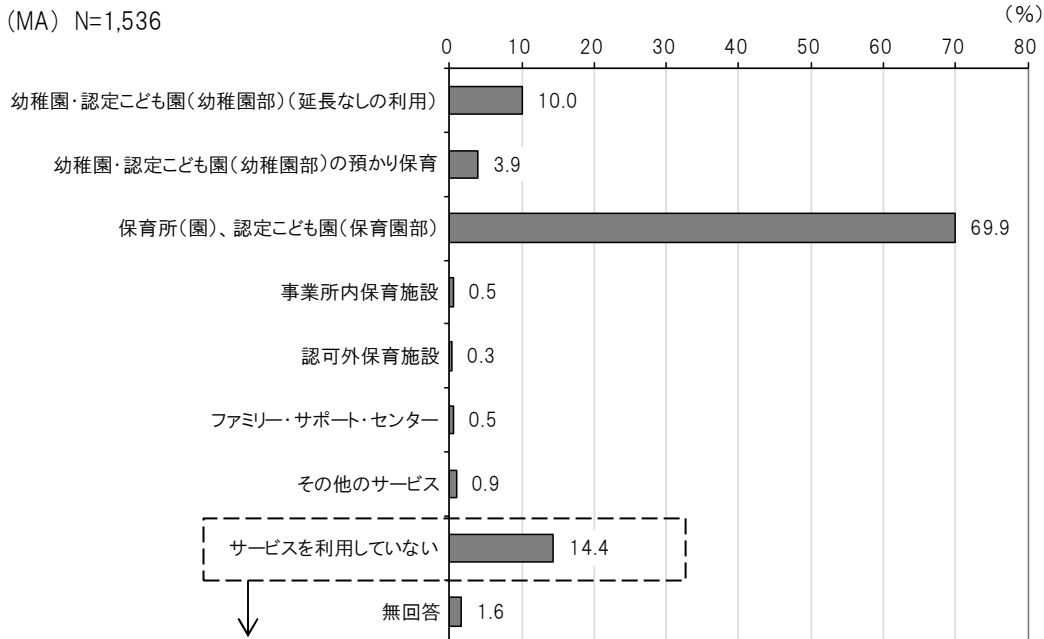


### ③ 教育・保育施設について

#### ◎現在利用している教育・保育事業

「保育所（園）、認定こども園（保育園部）」が 69.9%で突出しています。「サービスを利用していない」が 14.4%、「幼稚園・認定こども園（幼稚園部）（延長なしの利用）」が 10.0%で続いています。

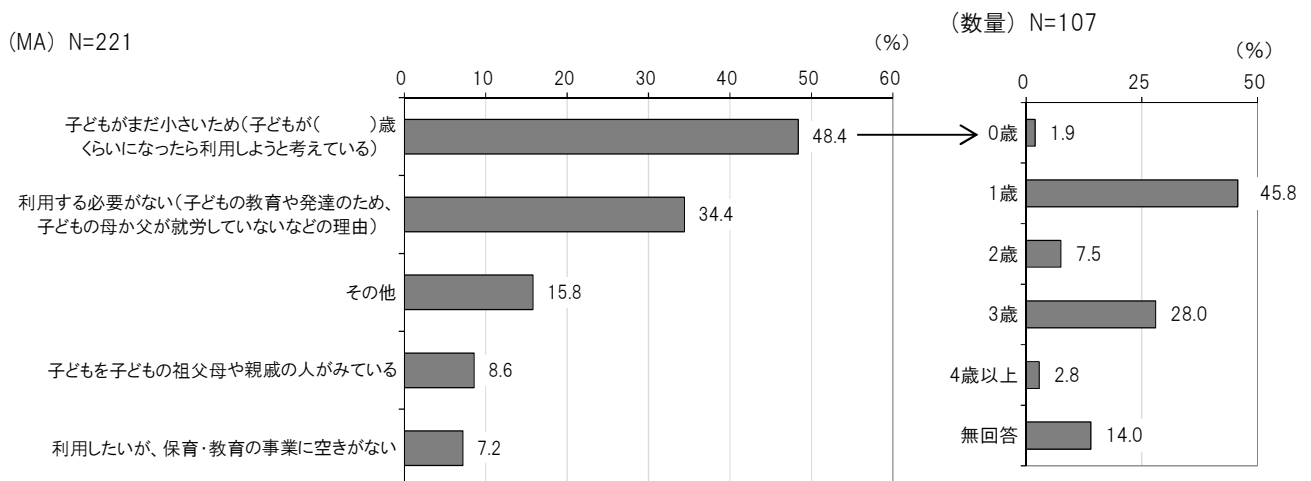
#### ■おさんは現在、平日にどのようなサービスを利用していますか。（複数回答）



#### ◎利用していない理由【上位5項目のみ】

「子どもがまだ小さいため（子どもが（ ）歳くらいになったら利用しようと考えている）」が 48.4%で最も高くなっています。次いで「利用する必要がない（子どもの教育や発達のため、子どもの母か父が就労していないなどの理由）」が 34.4%で続いています。

就労したい子どもの年齢では、「1歳」が 45.8%と最も高く、次いで「3歳」が 28.0%で続いています。

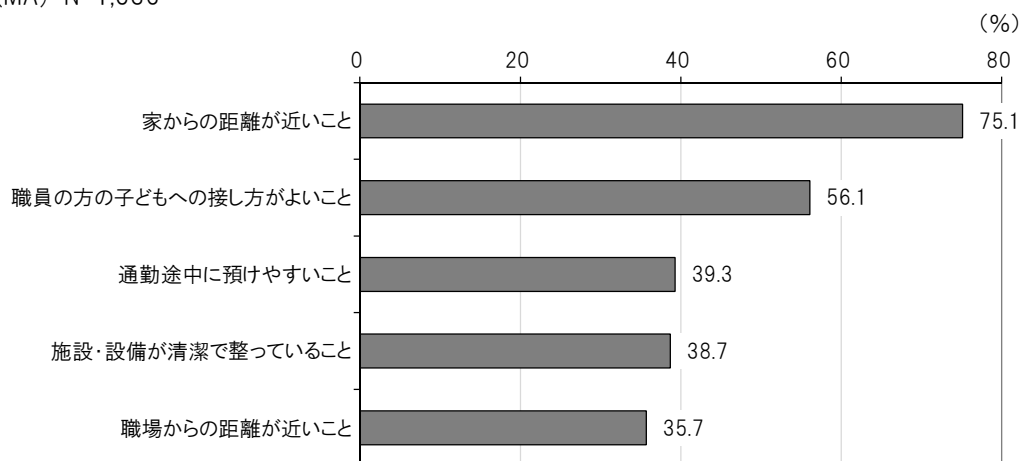


### ◎施設やサービスを選ぶ際に、重視する点【上位5項目】

「家からの距離が近いこと」が75.1%で最も高くなっています。次いで「職員の方の子どもへの接し方がよいこと」が56.1%、「通勤途中に預けやすいこと」が39.3%が続いています。

■現在、利用している、利用していないにかかわらず、お子さんを平日に預ける施設やサービスを選ぶ際に、重視する点はどのようなことですか。（複数回答）

(MA) N=1,536

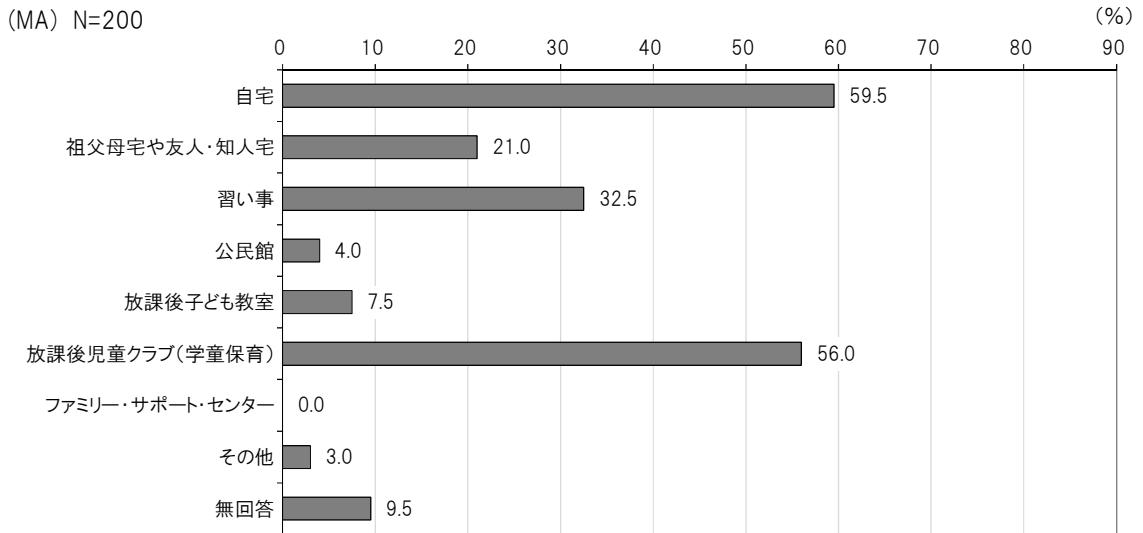


◎放課後過ごさせたい場所

【就学前】 ※お子さんが5歳以上の方のみ回答

「自宅」が 59.5%、「放課後児童クラブ（学童保育）」が 56.0%で群を抜いて高くなっています。「習い事」が 32.5%で続いています。

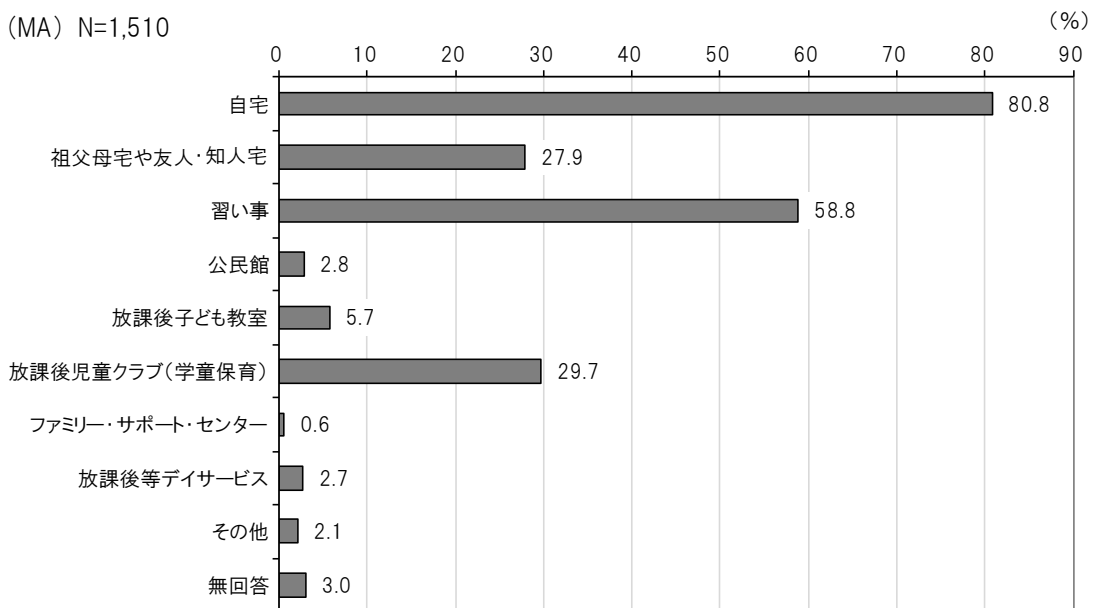
■小学校就学後の放課後の時間をどこで過ごさせたいと思いますか。（複数回答）



【小学生】

「自宅」が 80.8%で最も高くなっています。次いで「習い事」が 58.8%、「放課後児童クラブ（学童保育）」が 29.7%で続いています。

■平日の放課後や休日を、主にどのように過ごしてほしいですか。（複数回答）



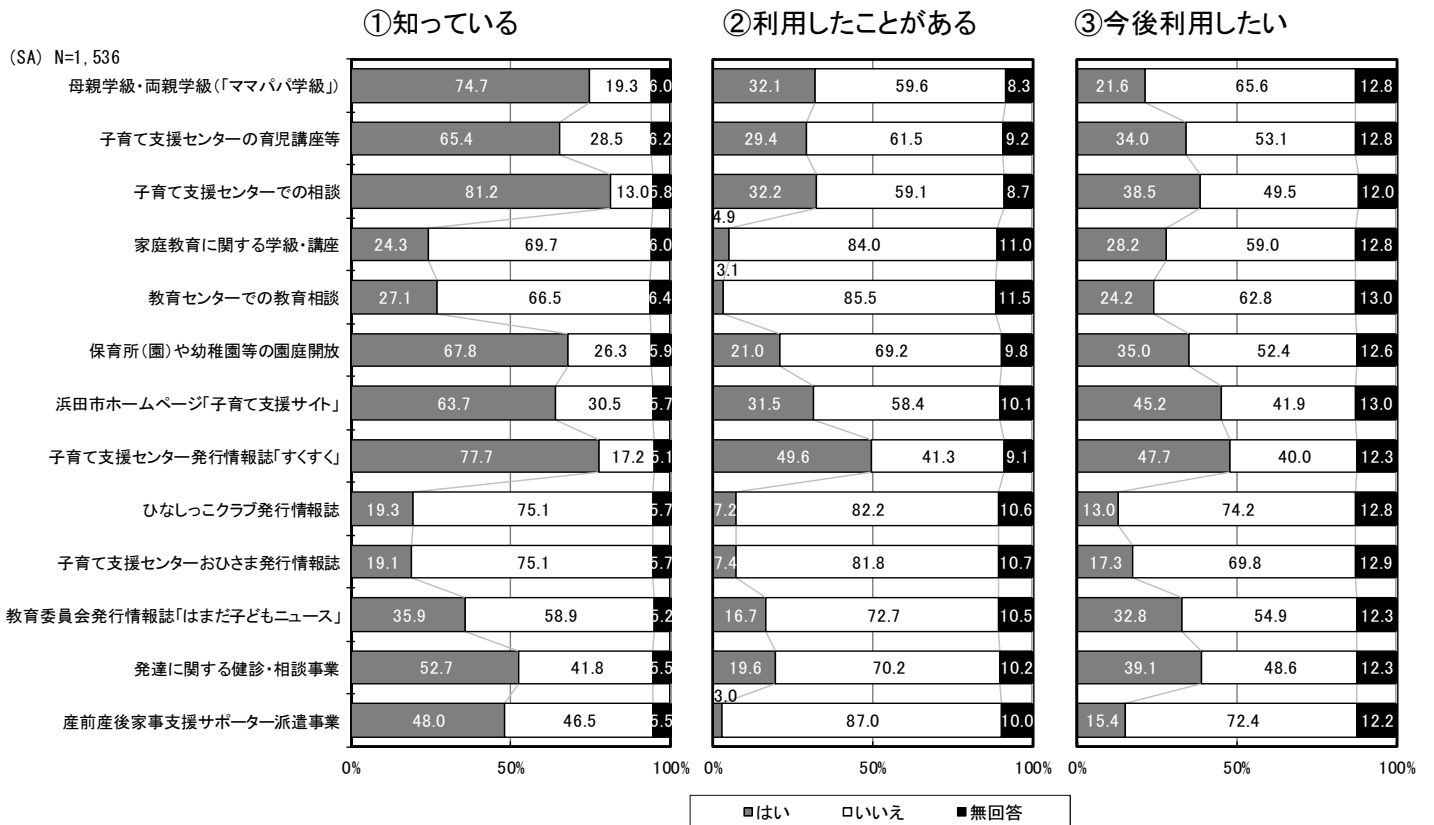
◎各事業の認知度、利用実績と今後の利用希望

①知っている事業では、「子育て支援センターでの相談」「母親学級・両親学級（「ママパパ学級」）」「子育て支援センター発行情報誌『すくすく』」で7割を超えて高くなっています。

②利用したことがある事業では「子育て支援センター発行情報誌『すくすく』」が約半数で最も高くなっています。

③今後利用したい事業では「浜田市ホームページ「子育て支援サイト」」「子育て支援センター発行情報誌『すくすく』」が4割以上で高くなっています。

■事業について、知っているものや、これまでに利用したことがあるもの、今後、利用したいと思うものを教えてください。（それぞれ単数回答）



#### ④ 育児休業や短時間勤務制度など職場の両立支援制度について

##### ◎父母の育児休業等の取得状況

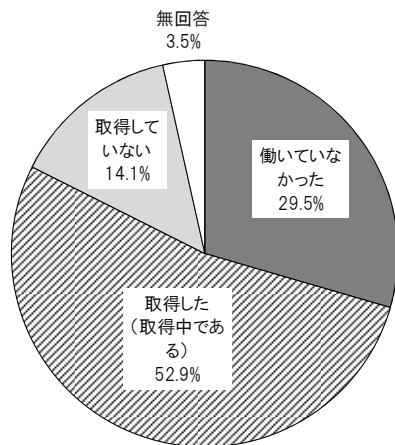
母親では「取得した（取得中である）」が 52.9%を占めています。父親では、「取得していない」が 78.5%を占めています。

母親の取得状況について、前回の調査結果（平成 26 年）と比較してみると、「取得した（取得中である）」の割合は 1 割以上高くなっています。

##### ■お子さんが生まれた時、父母のいずれかもしくは双方が育児休業を取得しましたか。（単数回答）

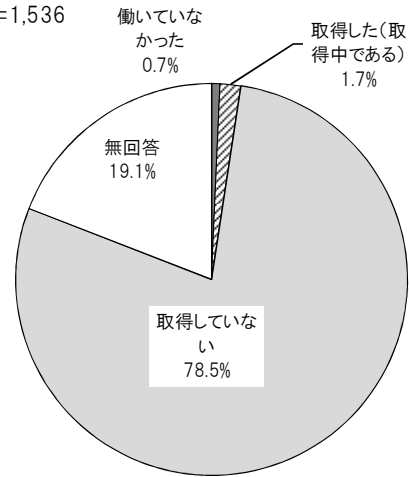
###### 【母親】

(SA) N=1,536

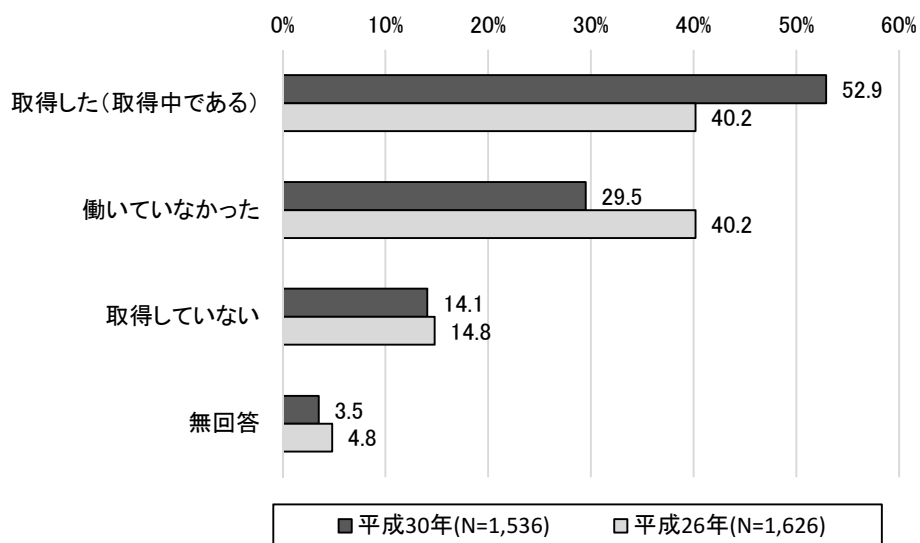


###### 【父親】

(SA) N=1,536



##### ■【前回比較】母親の育児休業の取得状況



◎育児休業等を取得していない理由【上位5項目】※育児休業を「取得していない」と回答した方のみ

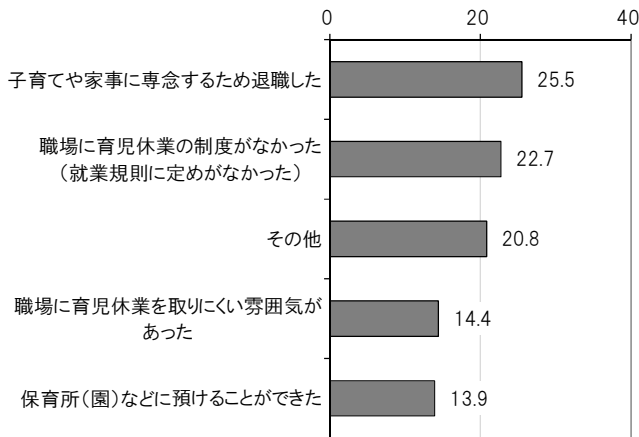
母親では、「子育てや家事に専念するため退職した」が 25.5%で最も高くなっています。次いで「職場に育児休業の制度がなかった（就業規則に定めがなかった）」が 22.7%で続いています。前回の調査結果（平成 26 年）と比較してみると、「職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった」では、割合が低くなっています。

父親では、「配偶者が育児休業制度を利用した」が 37.3%で最も高くなっています。次いで「仕事が忙しかった」が 33.3%、「職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった」が 28.9%で続いています。

■取得していない理由はなんですか。（複数回答）

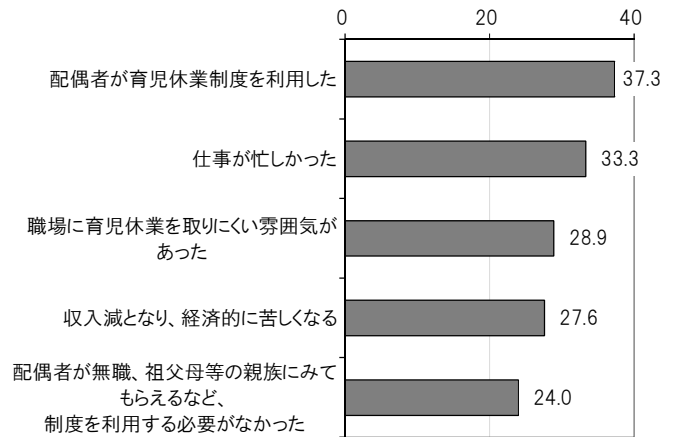
【母親】

(MA) N=216

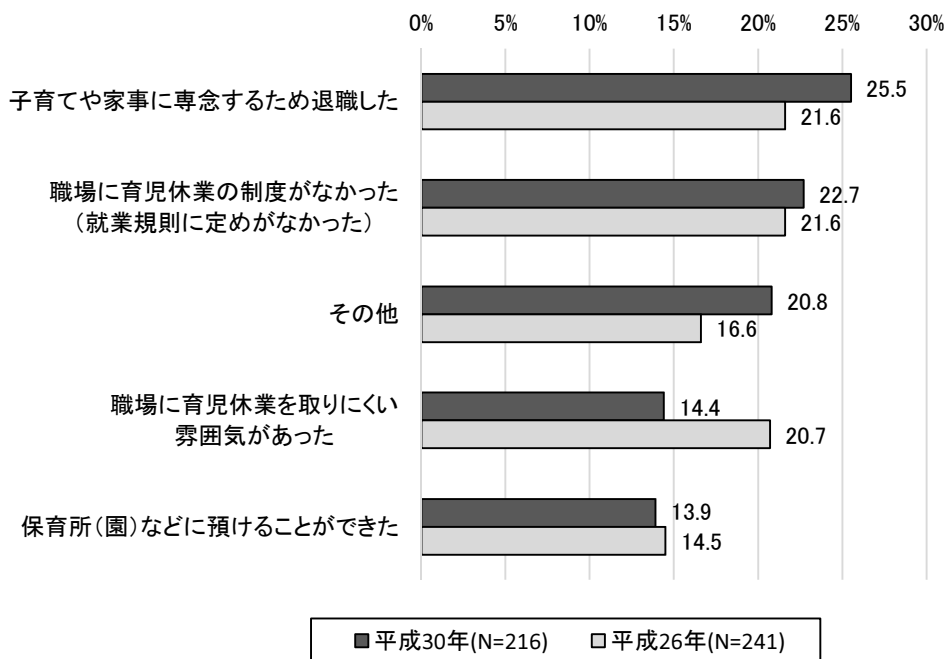


【父親】

(%) (MA) N=1,206



■【前回比較】母親が育児休業を取得していない理由 ※上位5位(平成 30 年)を比較

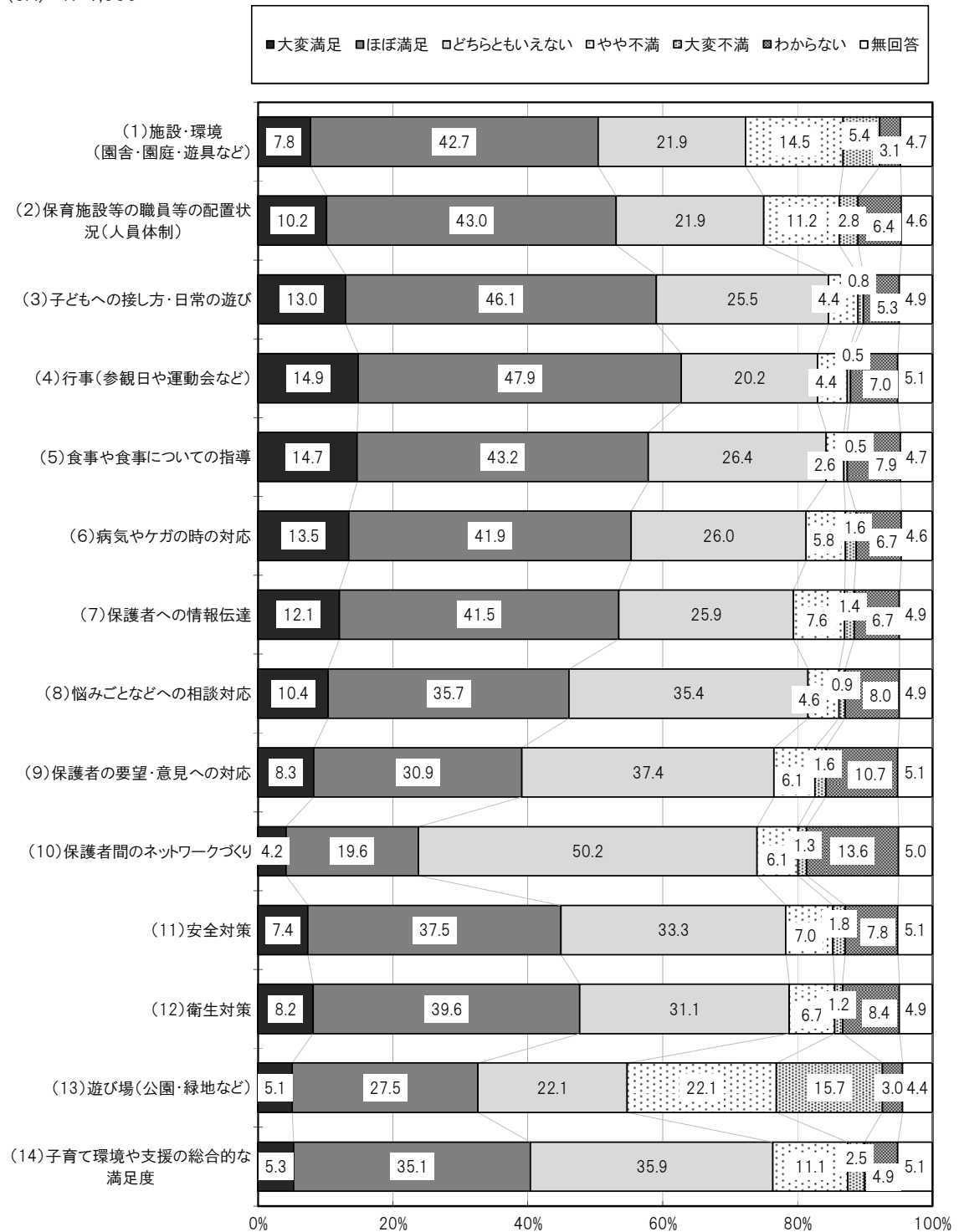


### ⑤ 浜田市の子育て支援施策全般について

満足している層（「大変満足」＋「ほぼ満足」）では、「(4) 行事（参観日や運動会など）」  
「(3) 子どもへの接し方・日常の遊び」「(5) 食事や食事についての指導」の順に割合が  
高くなっています。

■お住まいの地域における子育ての環境や支援の満足度をお答えください。（単数回答）

(SA) N=1,536





## 4 第1期子ども・子育て支援事業計画の評価

### (1) 教育・保育の実績

第1期計画策定時の見込みに対して、1号認定（3～5歳）の実績は下回っている状況です。その他の教育保育事業については、概ね見込みどおりで推移しています。

※1号認定、2号認定、3号認定の区分の説明は、78ページを参照してください。

	第1期計画 策定時実績	直近実績値	第1期計画に おける確保量
	平成25年度		平成30年度 令和元年度
1号認定(3～5歳)	240人	189人	420人
2号認定(3～5歳)	1,097人	1,043人	1,133人
3号認定(1～2歳)	671人	655人	655人
3号認定(0歳)	221人	218人	212人

### (2) 地域子ども・子育て支援事業の実績

第1期計画策定時の見込みに対して、ファミリー・サポート・センター事業（協力会員数）及び一時預かり事業（在園児対応型以外）、病児・病後児保育事業の実績は特に下回っている状況です。延長保育事業は足りていない状況がうかがえます。

	第1期計画 策定時実績	直近実績値	第1期計画に おける確保量
	平成25年度		平成30年度 令和元年度
利用者支援事業	1か所	1か所	1か所
地域子育て支援拠点事業	2か所	3か所	3か所
妊婦健康診査	5,082回	4,757回	
赤ちゃん訪問事業	412人	365人	
養育支援訪問事業	133件	93件	
子育て短期支援事業	0か所	2か所	2か所
ファミリー・サポート・センター事業(協力会員数)	229人	178人	230人
一時預かり事業(幼稚園在園者対象)	2,652日	9,845日	10,227日
一時預かり事業(在園児対応型以外)	1,613日	1,271日	4,031日
延長保育事業	886人	966人	527人
病児・病後児保育事業	433日	28日	664日
放課後子ども総合プラン	523人	809人	875人

### (3) 各施策に対する評価

#### 基本目標 1 子ども～自分とみんなを大切にする“浜田っ子”を育みます～

乳幼児期から小児期の保健対策として、すべての子どもが健やかに成長・発育できるよう、疾病の予防とともに、健康的な生活習慣づくりへの支援が必要であり、乳幼児健診や訪問指導、療育相談・支援等を継続して実施しました。また、支援の必要な子どもに対して、特別支援連携協議会相談支援チームによる保育所（園）等への巡回訪問により家庭への支援を行いました。

平成 28 年 3 月に、学校支援、放課後・休日支援や家庭教育支援を包括した「はまたっ子共育プロジェクト」を立ち上げ、中学校区ごとにネットワーク会議を実施し、学校・家庭・地域の連携・協働による活動を進めています。

	A:十分できた	B:概ねできた	C:あまりできなかった	D:未実施
件数	39	48	2	1

#### 基本目標 2 家庭～喜びを感じられる、ゆとりのある子育てを支えます～

平成 28 年 10 月に子育て世代包括支援センターを開設し、妊娠期から出産・育児期までの切れ目のない支援を実施しました。

不妊治療については、これまで実施していた一般不妊治療に加え、特定不妊治療や不育症治療についても助成を行いました。

児童虐待については、関係機関などと協力しながら虐待の早期発見と予防に努めました。

家庭教育支援については、平成 29 年度に乳幼児期に特化した家庭教育支援プログラムを開発し、県が推進する親学プログラムと合わせて、浜田市版家庭教育支援プログラム「HOOP！（浜田親子共育応援プログラム）」を構築しました。

経済的支援については、乳幼児等の医療費の助成の拡充を図りました。

	A:十分できた	B:概ねできた	C:あまりできなかった	D:未実施
件数	24	44	3	3

#### 基本目標 3 地域～地域のみんなで、安心・安全な子育て環境を整えます～

子育て支援センターでは、育児相談や育児講座、母親同士の仲間づくりなど様々な事業を実施し、多様な子育てのニーズに対応してきました。また、子育てに関する行政施策の情報を提供するため、子育て支援ガイドを作成し、ライフステージ毎の施策について情報提供を実施しています。警察署等と連携した小中学校での防犯教室の開催や、見守り隊など地域ぐるみで子どもを犯罪から守る体制づくりが進められています。

	A:十分できた	B:概ねできた	C:あまりできなかった	D:未実施
件数	11	46	5	1

## 5 現状と課題を踏まえた子ども・子育て支援の方向性

### (1) 就学前から就学後までの教育・保育の充実

<b>統計資料</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>●平成 27 年の 15 歳以上の女性の就業率は、全国と比べて高く、島根県と同程度の水準となっています。就業率の上昇から、女性の社会進出や就労形態の変化による保育ニーズの増加が予測されます。</li><li>●国では、女性の就業率 80%に対応する教育・保育の量を確保する方針が示されており、本市においても、共働き世帯のさらなる増加に対応した教育・保育の量の確保が求められるほか、幼児教育・保育のさらなる質の向上を図る必要があります。</li></ul>
<b>ニーズ調査</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>●地域の子育ての環境や支援の満足度をみると、「行事」や、「子どもへの接し方・日常の遊び」「食事や食事についての指導」の満足度は高い一方、「保護者間のネットワークづくり」「遊び場」「保護者の要望・意見への対応」の満足度は低い傾向となっています。</li></ul>
<b>子育て支援団体 ヒアリング調査</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>●市の子育てや子どもが育つ環境に関して、問題点・課題と感じていることについては、「認定こども園や小学校などの子どもの教育の質」「認定こども園や保育所(園)、放課後児童クラブなどの子どもを預かる体制」が上位となっています。</li><li>●課題解決への取組を行う上で困っていることについては、「プログラムを提供できる人材不足」「人材教育のための資金不足」などが挙げられています。</li></ul>

### ▶▶ 今後の方向性

保護者の就業率の向上やグローバル化の進展などにより、教育・保育の利用希望が高まることが見込まれると同時に、質に関するニーズの高まりも予想されます。親の就労状況等にかかわらず、すべての子どもに質の高い幼児期の教育・保育を提供できる体制の整備や、人材の確保に向けた取組を進めます。

## (2) 地域・学校・企業・行政の連携による子育て支援の充実

<b>市の動向</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>●社会教育の一環として進めている地域学校協働活動では、地域住民、保護者、地域の団体など幅広い市民の参画を得ながら、地域全体で子どもたちの学びや成長を支え、地域と学校が連携・協働し、学校を核とした地域づくりをめざしています。</li><li>●平成28年度から取り組んでいる「はまだっ子共育プロジェクト」においては、中学校区毎のネットワークの充実を図りながら、次代を担う子どもたちを育むとともに、活動に関わる大人たちも学び、高まっていく活動を推進しています。</li></ul>
<b>ニーズ調査</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>●子どもに特に身につけてほしい力や大切にしてほしいと思うことについて、「人との関わりを大切にし、コミュニケーション能力を身につけること」が6割台で最も高く、「あいさつや礼儀、社会的マナーを身につけること」、「友達や身近な人と親しみ、関わること」が続いています。</li><li>●地域の中でお子さんを遊ばせたいと思う場所について、就学前児童保護者調査・小学生児童保護者調査ともに、「外遊びを中心に遊ばせたい」が最も高く、「地域の支援者がいろいろな遊びを教えてくれるところで遊ばせたい」が4割以上で高くなっています。教育・保育の現場や家庭以外においても、地域の人が見守る中での「居場所」を求める人が多くなっています。</li></ul>
<b>子育て支援団体・事業所ヒアリング調査</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>●団体が行政に望む支援や施策については、「行政と団体が連携して取組を行うための体制づくり」「子どもの遊べる場所や住居・まちづくりなどの暮らしの環境整備」が上位となっています。</li><li>●事業所ヒアリング調査では、回答をいただいたほとんどの企業で、仕事と子育てを両立できる環境づくりに向けた制度などの整備が行われています。行政に望むものとしては、助成金の交付や税制上の優遇措置のほか、先進的な取組を行う企業の事例の紹介などもあげられています。</li></ul>

### ▶▶ 今後の方向性

子どもが普段の暮らしの中で地域の人と関わり、学びや体験につながる機会を充実させるとともに、地域とのコミュニケーションを図れる場の整備を進めます。また、地域資源を活かした多様な体験・交流活動や、親子が安心して集える場の整備・充実に取り組めます。

### (3) 子育ての孤立解消と家庭での子育て力の向上

<b>統計資料</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>●世帯数は微減傾向にあり、1世帯あたりの人数も減少していることから、今後さらに、核家族世帯や単独世帯の増加が予測されます。</li><li>●厚生労働省の「国民生活基礎調査」によると、6人に1人の子どもが相対的な貧困状況にあり、特に、ひとり親家庭では半数以上が相対的な貧困状況に該当していると報告されています。また近年、子どもに対する虐待やいじめ、及びそこから派生する子ども・子育て世帯の社会的な孤立等が大きな問題となっています。</li></ul>
<b>県・市の動向</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>●島根県内各地で進められている「親学プログラム」では、子育て支援や家庭教育支援を行う人が乳幼児や小中学生をもつ親を対象として、親としての役割や子どもとの関わり方の気づきを促す学習機会を提供しているとともに、親（保護者）同士のつながりや学校・家庭・地域とのネットワークの構築も図っています。</li><li>●本市では、浜田市版家庭教育支援プログラム「HOOP！（浜田親子共育応援プログラム）」により、子育て世代の不安解消に向けて取り組んでいます。</li></ul>
<b>ニーズ調査</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>●子育てに関して、日常悩んでいること、または気になることについては、就学前児童保護者調査・小学生児童保護者調査ともに、「子どもを叱りすぎているような気がする」「子どもとの時間を十分にとれないこと」「子どもにかかる費用や経済的なこと」が上位5位以内に入っており、子育て家庭が抱える不安や悩みが多岐にわたっていることがうかがえます。</li><li>●地域で子育てを支えるために必要だと思うことについて、「子育てに関する悩みについて気軽に相談できる人や場があること」が約半数と高くなっており、気軽に相談ができる環境づくりと専門的な情報提供を含めた体制づくりが求められます。</li></ul>
<b>子育て支援団体 ヒアリング調査</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>●日頃の活動の中で、利用者や参加者、保護者からいただく要望や意見について、「お父さんや祖父母世代の子育ての学びが不足している」「子どもとの関わりについて、もっと早く知りたかったなどの意見が多い」「働いている母親やその家族は、なかなか相談など行こうにも行けない」などがあげられています。</li></ul>

#### ▶▶ 今後の方向性

在宅で子育てをしている家庭、共働き家庭やひとり親家庭などの家庭環境にかかわらず、保護者が社会から孤立しないよう、きめ細かい相談体制や連携体制を整えるとともに、家庭での子育てが楽しくなる環境づくりに取り組みます。